

人権課題 子ども

友達を思う心



1 教科等 小学校1年 特別の教科 道徳

2 主題名 友達を思う心 [B-(9) 友情、信頼]

3 ねらいと教材

(1)ねらい 友達を認めて仲よくしていこうとする態度を育てる。

(2)教材名 「二わの ことり」(出典:東京書籍「新しい道徳I」)

4 主題設定の理由

(1)指導内容について

本主題は「友達と仲よくし、助け合うこと。」という内容項目を受けたものである。よりよい友達関係を築くには、日常生活の様々な場面において、相手の気持ちになって助け合ったり協力し合ったりして、互いのよさを理解したり認め合ったりするなど、信頼関係を育てることが大切である。

そこで、一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを考えさせながら、友達の立場をよく考えた言動をすることの大切さに気付かせ、友達のよさを認め仲よくしていこうとする態度を育てたい。

(2)教材について

本教材は、友達の悲しみに気付き、本当の友情とは何かに気付いていく物語である。みそさざいは、やまがらからの誕生日の招待を受けながら、迷いつつも友達に誘われるままうぐいすの家に行ってしまう。しかし、寂しく待っているであろうやまがらを思い、途中からそっと抜け出しやまがらの家へ行く。本教材では、中心場面として、みそさざいがやまがらの家に行った場面を取り上げる。みそさざいが、友達のやまがらの寂しい気持ちに気付くと共に、みそさざいの友達を思う気持ちを深く考えることができるようにする。そのことを通して、友達の気持ちを考えた行動が、やまがらの喜びとみそさざいの充実感につながり、互いがうれしくなることに気付かせたい。

5 本時(本実践)と人権教育

友達と仲よく活動することの楽しさや助け合うよさとともに、友達のことを考えて行動することの大切さに気付き、自分や友達を尊重しようとする態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと…★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導・援助の留意点
<p><導入> 1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○友達と仲良くできたことやできなかったことはありますか。 ・一緒に遊ぼうと言われて嬉しかった。 ・自分だけ仲間外れにされて、悲しかった。</p>	<p>・事前のアンケートの結果から、自分の課題として考えることができるようにする。</p>
<p>ともだちとなかよくするためのひみつを見つけよう。</p>		
<p><展開> 2 教材文「二わのこり」を読んで「みそさざい」の気持ちや行動の理由を話し合う。</p> <p>・ワークシートに記入する。 ・ペアで話し合う。 ・全体で話し合う。</p>	<p>○みそさざいは迷っていたのに、どうしてうぐいすの家へ行ったのでしょうか。 ・うぐいすの家の方が明るくきれいだから。 ・やまがらの家は遠いところだから。 ・みんなといっしょのほうがいいから。</p> <p>◎みそさざいは、なぜそっと抜け出してまでやまがらの家へ行ったのでしょうか。 ・一人ぼっちで待っているやまがらがかわいそうだから。 ・やまがらさんも友達だから、自分だけでも早く行ってあげたい。 ・やまがらさんがせっかく誘ってくれたのだから。</p> <p>○みそさざいは、うれしそうなやまがらを見て、どう思ったのでしょうか。 ・やっぱり来てよかった。 ・喜んでくれて、自分もうれしいな。 ・大切な友達だから、仲良くしたいな。</p> <p>○友達と仲良くするためには、どんなことが大切でしょうか。 ・友達が喜ぶことをする。 ・友達の気持ちを考えて行動する。 ・相手のことを思いやる。</p>	<p>・挿絵を掲示し、状況を整理することができるようにする。 ・家の様子を対照的に板書し、一人ぼっちの友達を思うみそさざいの気持ちを考えやすくする。</p> <p>・「そっとぬけだして」に着目させることで、うぐいす側のことも考えて行動しているところに気付くことができるようにする。 ・やまがらの家に行く理由を話し合わせることで、葛藤しながらも一人ぼっちの友達を思う考えへ変化したみそさざいの心情に気付くことができるようにする。</p> <p>★教師がやまがら役で役割演技を行い、相手の気持ちを考えて行動することの大切さや相手が喜んでくれることのうれしさに気付くことができるようにする。</p>
<p><終末> 3 これまでの自分について振り返る。</p> <p>4 説話を聞く。</p>	<p>○みそさざいのように友達のことを考えて行動したことや、こうすればよかったなということがありますか。 ・一人でいた友達に「いっしょに遊ぼう」と誘ってよかった。 ・けんかしたとき、すぐ謝ればよかった。</p>	<p>★これまでの友達関係について振り返りながら、友達と仲良くするためには、今後どんなことが大切なのかを具体的に考えることができるようにする。</p> <p>・本時で学習した友情、信頼の価値について振り返る時間を十分に確保し、発表し合うことで、友達の考えに触れる機会をもつとともに、今後の実践意欲に繋ぐことができるようにする。</p>

<評価の視点>

- ・友達のことを考えて行動すると互いがうれしい気持ちになることの大切さに気付くことができたか。
(道徳的価値理解の深まり)〈発表・ワークシート〉
- ・今後の生活で、友達の気持ちを考えて仲良く助け合っていこうとする意欲を高めることができたか。
(道徳的意欲の高まり)〈ワークシート〉

人権課題 子ども

よく考えて行動する



1 教科等 小学校4年 特別の教科 道徳

2 主題名 よく考えて行動する [A-(3) 節度、節制]

3 ねらいと教材

(1)ねらい よく考え、自らを節制し周りに流されることなく、適切な行動をしようとする態度を育てる。

(2)教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」(出典:東京書籍「新しい道徳4」)

4 主題設定の理由

(1)指導内容について

本主題は「よく考えて行動し、節度ある生活を送ること。」という内容項目を受けたものである。自分の置かれた状況についてよく考えて自らを節制し、自分も他の人も気持ちのよい生活を送ることの大切さについて考えを深めるようにしたい。そのために自らを節制し、自分自身で考えて度を過ぎることなく、節度ある生活を送ろうとする態度を育てたい。

(2)教材について

本教材は、ゆうじをからかっていることをいじめではないかと父に指摘され、主人公の「ぼく」がどうすればよいのかを悩んだ末、周りに流されず自分にできる行動をしたという物語である。「ぼく」は、ゆうじが友達から「サル」とよばれている時、他の友達とは同調せず、その場から立ち去ることを選ぶ。「ぼく」が自分で考えた上で、できることをしたところを中心場面として、注意するのではなく「ぼく」が黙って教室を出て行った理由について話し合わせる。そうすることで、自分の置かれた状況についてよく考え、節度ある生活を送ることが自他の快適な生活を守ることに繋がっていくことに気付かせたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自分の言動に責任をもち、人権の観点から自分の置かれた状況についてよく考えた節度ある行動をしようとする意志や態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと・・・★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導・援助の留意点
<p><導入> 1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○周りの人の考えや行動に流されてしまったことがありますか。 ・人の意見を聞くと、「そうかな」と思ってしまう。自分の意見に自信がない。 ・いけないと思っても、下校中に二列になってしまった。</p>	<p>・事前のアンケートの結果から、自分の課題として考えることができるようにする。</p>
<p>よく考えて行動することについて考えよう。</p>		
<p><展開> 2 教材文「いっしょになって、わらっちゃだめだ」を読んで「ぼく」の気持ちや行動の理由を話し合う。</p> <p>・ワークシートに記入する。 ・ペアで話し合う。 ・全体で話し合う。</p>	<p>○「ぼく」はゆうじが「サル」とよばれている時どんな気持ちでしょう。 ・かわいそうだな。 ・誰か止めてくれないかな。 ・困ったな。</p> <p>◎「ぼく」はなぜ直接注意せず、黙って教室を出て行ったのでしょうか。 ・一緒になって笑ったらかわいそうだから。 ・直接注意すると、代わりに被害にあうかもしれないから。それはいやだから。 ・それでも、何とかしたいから。 ・自分なりに考えて、周りに流されない行動を選ぼうと思ったから。</p> <p>○「ぼく」はゆうじを「サル」と呼ぶ声がなくなってどんなことを考えているだろう。 ・みんなと同じ行動を取らなくてよかった。 ・笑っているからと言って、必ずしも楽しいわけではない。流されず、今後もよく考えて適切に行動したい。</p>	<p>・登場人物や状況を整理して板書することで、「ぼく」の視点で考えることができるようにする。</p> <p>★注意ができなかった理由や、黙って教室を出て行った理由を考えさせることで人間的な弱さにふれるとともに、周囲に同調せずによく考えて行動することの大切さに気付かせるようにする。</p> <p>★周りに流されずによく考えて行動する大切さを考えさせることで、自分だけでなくみんなにとっても気持ちよく生活することに繋がることを押さえるようにする。</p>
<p><終末> 3 これまでの自分について振り返る。</p> <p>4 説話を聞く。</p>	<p>○「ぼく」のように、自分でよく考えて行動したことや、こうすればよかったなということはありませんか。 ・友達の失敗を見て、傷つくと思ったので笑わずにいてよかった。 ・だめだと分かっていたが、友達と一緒に騒いだので、他のことをして静かにしたい。</p>	<p>・本時で学習した節度、節制の価値について振り返る時間を十分に確保し、発表し合うことで、友達の考えに触れる機会をもつとともに、今後の実践意欲に繋ぐことができるようにする。</p>

<評価の視点>

- ・よく考えて行動することの大切さについて、自分なりの考えをもつことができたか。
(道徳的価値理解の深まり) <発表・ワークシート>
- ・自分の生活を振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高めることができたか。
(道徳的意欲の高まり) <ワークシート>

人権課題 インターネットによる人権侵害

よりよく使うインターネット



1 教科等

小学校5年 学級活動

内容(2)イ よりよい人間関係の形成

2 題材設定の理由

SNSへ投稿する際、配慮に欠けた表現を書き込んだことで、他人を傷つけてしまったり、ネットワーク通信の可能なゲームを使用する際、言葉遣いが乱暴になりトラブルになったりする事例があった。また、校内においてもGoogle Classroomに自分の思いや意見を書き込む際、不適切な書込みが見られたこともあった。

そこで、この教材を通して、インターネット上の適切なコミュニケーションへの関わり方、特にメッセージを書き込む際に大切なことについて、相手の立場に立って考えることができるようすることで、相手の気持ちを尊重しようとする意欲・態度を養うとともに、投稿してよい内容かどうかを判断する力と適切な自己表現等を可能にするためのコミュニケーションスキルを身に付けさせたい。

3 評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
インターネット上のコミュニケーションにおける特性や課題について理解している。	相手の気持ちを尊重した上で、自分の思いの適切な伝え方について考えたことを実行している。	自分とインターネットとの関わり方について振り返りながら、情報発信者として意欲的に相手のことを考えようとしている。

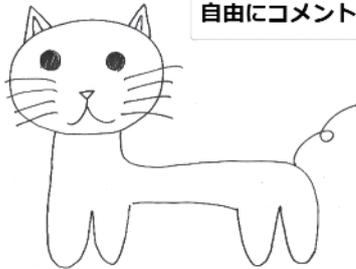
4 事前指導

	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
○月○日	インターネットの使い方に関するアンケートを行う。	児童がインターネット上で自分はどのようにコミュニケーションを行っているのか意識できるようにする。	自分とインターネットとの関わり方について振り返ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・ワークシート)
○月△日	事前アンケートの結果をもとに、自分たちのインターネットとの関わり方を知ったり、資料から情報モラルについて理解したりする。	インターネット上で問題になっている事例(メッセージアプリ内の悪口や仲間外れ、なりすまし投稿など)について取り上げることで、問題意識を高めることができるようにする。	インターネット上のコミュニケーションにおける特性や課題について理解している。 【知識・技能】 (発言・ワークシート)

5 本時(本実践)と人権教育

インターネット上の適切なコミュニケーションについて考え、自他の権利を尊重しようとする意欲や態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

インターネット上の適切な自己表現のためのコミュニケーションについて考え、実践することができる。
(技能的側面)

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
<p>〈導入〉</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○インターネットの活用は情報の共有や感動の分かち合いに役立つことを押さえる一方で、SNS への書込みのモラルが課題になっていることに気付かせ、本時のめあてをつかむことができるようにする。</p>	
<p>インターネット上にメッセージを書き込む時には、何に気を付けたらよいだらう。</p>		
<p>〈展開〉</p> <p>2 例示された書込みをもとに、適切な書込みと不適切な書込みについて考える。</p>	<p>○ネコの絵に対するそれぞれの書込みについて適切かどうか考えさせる。また、その理由も考えさせる。</p> <div data-bbox="453 763 1002 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ネコの絵です。 自由にコメントしてね！！</p>  </div> <div data-bbox="453 1155 1002 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> ① うまくかけていると思います ② 上手ですね ③ 顔はいいですね ④ 顔、かわいいけど、体が面白いww ⑤ カーワーイーイー ⑥ なんてやねんww </div>	
<p>3 自分の意見と友達の見解を比較しながら話し合うことによって考えを深める。</p>	<p>○端末を使って、①～⑥の書込みに対する児童の考えを「適切」、「不適切」、「なやむ」の円グラフとして電子黒板上に表示することによって、クラス全体の考えを視覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>★④の書込みについて「適切」、「不適切」、「なやむ」のそれぞれの立場から議論を行うことによって、人によって感じ方や考え方が異なる点に気付いたり、情報の発信者として他者の価値観を尊重することの大切さについて考えたりすることができるようにする。</p> <p>★事前のアンケート結果から、文字だけのやりとりのために誤解が生じやすかったり、匿名性があるために相手に配慮を欠いた態度になったりしがちになるなどの、インターネットの特性を理解しながら「より慎重に言葉を選ぶことの必要性」について考えることができるようにする。</p>	<p>・相手がどう受け取るかを想像し、より慎重に言葉を選びその影響について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・記述)</p>

<p>インターネット上にメッセージを書き込む時には、人によって感じ方がちがうことを意識して、より慎重に使う言葉を選ばなければならない。</p>		
<p>〈終末〉 4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○「インターネット上に書き込む際に気を付けなければならないこと」について、これからどうしていくかを、これまでの生活と結びつけて、具体的に考えることができるようにする。</p> <p>○次時の学習では、実際に端末を使って書込みの体験を行うことを伝えることによって、児童の実践に結びつけようとする意欲を高めることができるようにする。</p>	<p>・相手の気持ちを尊重した上で、自分の思いの適切な伝え方について考えたことを実行しようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>

7 事後指導

	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
○月○日	学習したことを生かして、インターネット上の書込みの体験を行い、自分自身の行動を振り返る。	これまでの学習を振り返り、自分とインターネットとの今後の関わり方について考えを深めことができるようにする。	相手の気持ちをよく考えた上で、自分の思いの適切な伝え方について考えたことを実行している。 【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)